

一滴水 = 9 = (題字は比叡山北嶺大行満酒井雄哉阿闍梨)

◇亀岡の「愛宕山麓の水」◇

世界に通用する自信

「一番おいしい日本の水」

全国愛宕社本宮の境内に水源

前回に続いて京都市の西方に位置する京都府亀岡市を訪ねてみた。二度にわたる訪問には理由がある。端から端に歩いてみても十キロ、面積三十二平方kmの盆地にもかかわらず地下水が実に豊富なことだ。しかも南の大阪側と北の京都側からの、まったく逆の二方向から盆地に向かって地下水流となって注いでいるのである。

前回紹介した丹山酒造の仕込み水は、このうち大阪側からの水系に頼っている。そこで今回は、反対の京都側からの水系の源流に近づきたいと試みることにした。

水源はいずれも神域に

めざす水源は、亀岡の市街地から北東に位置する愛宕山にある。京都市右京区と亀岡市にまたがり、標高は九二四メートル。愛宕信仰、言い換えれば防火神として崇拜を集めている。

この愛宕山の麓で二十年以上も前から、ミネラルウォーターを製造する宮川健二さんの案内で向かうことにした。

訪れたのは全国愛宕社本宮・愛宕神社（亀岡市千歳町国分南山ノ口一）である。本宮といっても決して偉容を誇るものではない。参詣者の姿もなく境内は森閑としている。しかし、樹齢一千年の楠と八百年のマキが寄り添うように立ち並び、本宮としての威厳を保っている。この楠にムササビが住み着いている。こうした自然が残る風景から「京都自然二百選」に指定され守られている。

境内に立つと微かに水の流れ落ちる音がする。近づいてみると小さな滝であった。水口や滝組みは後世に築かれたものだが、まさしく石灰岩層の愛宕山からゆっくりと流れ下ってきた水であった。感動は他にもあった。名水でありながら、まるで神威を恐れるように、世間からそっと遊離されていることであった。

この愛宕山系の地下水が、この愛宕神社を起点に、同市千歳町を経て、保津町に抜けて保津川へと流れていく。この他、保津川に抜けるいくつかの地点で、湧き水が確認されている。それらの一つに千歳町に鎮座する丹波一の宮・出雲大神宮の名水として知られる「御影の滝」がある。

ただしこの滝は、神宿る所として祀られるために、引き水して境内に入った右手に「御神水真名井」として、開放されている。水汲み場脇には、由緒書が立てられ、いわく「延命長寿水なり。含水成分、金銀、珪石、アルカリ、カルシウム等名水中の名水にして、世界広しと言えど、天下一位の名水なり」と自信たっぷり。

この辺りには、その昔、当地を治めた豪族の前方後円墳はじめ、丹波の国分寺跡などが点在。さらに平安京を起点とする旧山陰街道が通り、亀岡の中でも先進地域として早くから開けていた。当地に湧き出す愛宕山系のよい水は、こうした先進地域を支えた。逆に言えば、豊富な水があったが故に、この地域が発展したと言えなくはない。

水に取り組む姿勢こそ大切

宮川さんの製造するミネラルウォーター「愛宕山麓の水」は、この愛宕山系の地下水を汲み上げている。そのはずで、愛宕神社からわずか一キロばかりの地に工場があった。創業は、昭和四十七年。今とは違って、当時は全国でも五十社ほどしかライバルはなかった。しかも、まだ一般には水を買ってまで飲む風潮はなく、もっぱら顧客は飲食店であった。

地下百メートルから汲み上げて加熱殺菌したあと、ボトル詰めを行なうのが主な工程。もちろん、品質を守るために、同じ工場内で一貫作業により進められる。宮川さんは、一つとして気の抜ける工程はないと言う。

昨今ほど、ミネラルウォーターが注目されたことはかつてなかった。一昨年の猛暑による水不足、昨年の兵庫県の大震災の影響は確かに大きかった。しかし、ほとんどの産業部門と同じように、ミネラルウォーターの全国消費量の半分以上を大手数社が占めている。

水の違いと言っても、ほとんどの人には見分けがつかない。サービスとそして水に取り組む姿勢が、中小企業には大切なのだと宮川さんは強調する。

昨年一月に突如発生した大震災。被災地では、一挙に水不足に見舞われた。亀岡からは、幸い被災地に山一つ越えれば到着することができる。被災地に送るミネラルウォーターを待つトラックが工場内や周辺道路に溢れた。ほとんど無償で夜中三時頃まで操業させ、睡眠時間三時間余りでがんばり通した。

宮川さんは「こんな状態が一月いっぱい続きました。二十数年この仕事をしてきましたが、こんな経験は初めてでした。本当に水が人間にとって何よりも欠かせないことを、改めて思いました」と振り返る。

そしてこの頃では「各国の水を飲んで研究しましたが、日本の水が一番おいしい。逆に、日本から世界に向けて水を輸出すればよいと考えるようになってきました」と宮川さんは一気に話した。二十年来、水に携わってきた経験から「日本の水は充分、世界に通用する」と自信を深める。

これまで、水づくりでは後進国と言われている日本。この意気込みを、ぜひ実現してもらいたい。 (つづく)

愛宕山系の水が愛宕神社に滝となる [写真は省略]

このシリーズでは、水に関する情報及びご相談を受け付けております。ダイリントC、電話〇五二（七〇四）四六一番までお寄せ下さい。と一緒に水について考えてみたいと思っております。